

トマス・ムア

## 5 オロークの歌

ブレフニの王子

目の前に広がるすがすがしい谷  
あの日 僕が彼女を残してきたところ  
だが僕は震えていた 何かが胸に重くのしかかる  
この心の喜びを哀しみに変える何かが  
僕はランプを探した 愛する人が巡礼から戻るときに 5  
彼女が灯すと言っていたのだ  
しかし闇が僕を覆い始めたのに  
胸壁に灯るランプはなかった

僕は部屋へと急いだ そこはもの寂しく  
まるで彼女が死んでしまったかのよう 10  
ああ それが死で済みさえすれば  
だが違った 若い男が逃げていったのだ  
そこには 僕のひどい心の痛みをも和らげ  
幸福に変えてくれるはずのリュートがかかっていた  
だが今 それをよく奏でていた彼女の手は 15  
猛々しい恋仇の口づけの余韻にうち震えていたのだ

不貞な女よ かつては  
ブレフニの名剣が 何百万もの敵の中  
一瞬たりとも胸の中でさえお前のことを疑う者を  
打ち倒したものだ 20  
だが今や ああエリンの不埒な娘よ  
お前の貞節は地に落ちた  
隷属と虐殺の時代を通して  
お前の国は恥ずべき不貞のために血を流すのだ

すでに呪いは彼女の頭に降りかかっている 25  
侵入者たちがその谷の神聖を汚す  
やつらは民を引き裂き 名誉を汚しにやってくる

そしてやつらは独裁者として長く支配することになろう  
だが進め！ 緑の旗をはためかせ  
すべての剣に柄<sup>つか</sup>まで血を味わわせよ 30  
我らの側には貞節の母なるエリンがついている  
やつらの側には犯罪者サクソン人だ

(三木菜緒美訳)